

遊びと学びを通じた交流から

子育てを楽しむ父親の輪

report

父親支援とコミュニケーション ― こうちパパ楽会 ―



『こうちパパ楽会』と交流のある『フジこどもエコクラブ高知』との共催で「田植え」のイベントを毎年企画。高知県梼原町の棚田を農家より借り受け、田植え・収穫・脱穀まで、一連の作業を親子共同で行う。4年前から開催しており、メンバー以外の家族も自由に参加している



約25名が参加した賑やかな「料理教室」。メニューは餃子と炊き込みご飯。初めて包丁をにぎった子どもたちは、父親に教わりながらキャベツのみじん切りに挑戦



同会代表の松田高政さんと長女の花奈ちゃん。イベントに参加することで、花奈ちゃんは人とのコミュニケーションをとることがうまくなったという



父親の号令のもと、一斉に苗を植え始める子どもたち。自然の中での米づくりは、親子の貴重な思い出



メンバーの父親が自宅の庭に組んだ石釜で、本格的な「ピザづくり」を体験。イベントの企画は代表者だけでなく、他のメンバーが行う場合も。相互協力による運営が継続の秘訣だ



土佐湾に面した黒潮町で川あそびとバーベキューを楽しむ。「キャンプ」は毎年恒例の行事で、2005年に開催したこのときは、地元の消防隊員から救急蘇生法の指導も受けた

長野県教育委員会から講師を招き、「乳幼児期からのいじめ予防」について考えるフォーラムを主催。勉強会は、父親たちの悩みや不安がテーマの対象となる



ホームセンターの空きスペースを借りて「書道教室」を開催。父親が消しゴムではんこをつくり、子どもの「一文字書」に落款(らっかん)として押し、共同作品を仕上げた

「こうちパパ楽会」問い合わせ先

〒780-0964 高知市横内144-136
TEL:090-7145-0225 (松田高政)

父親と子どもの絆が 良好な家族関係を生む

新緑がまばゆい山間に、田植えを楽しむ父親と子どもの歓声がこだまする。高知県中西部・梲原町^{ゆすはら}にある棚田で毎年田植えを体験するのは、県内で活動する父親主体の市民グループ「こうちパパ楽会」のメンバーたちだ。

代表の松田高政さんは2児の父親で、仕事を持つ妻と義母の3者で子育てを分担している。しかし、「父親は子育ての悩みや相談を打ち明ける場がなく、孤立しがち」と感じていた松田さんは、こうち男女共同参画社会づくり財団の支援を受け、父親と子ども・父親同士のコミュニケーションの場づくりを目的に、知人の男性と2人で「こうちパパ楽会」を2004年に立ち上げた。

月ごとに様々なイベントを企画し、父親と子どもを集めて開催するのが主な活動。定期的に参加する親子は現在15組ほどで、会員制ではなく、費用はそのつど参加者だけが支払う。飛び入りでの参加もOK。制約や義務感がないことで、「父と子で過ごす時間を純粋に楽しめる」と松田さん。イベントのある日は母親の休日となり、父親は子どもとの絆を深めながら子育てにも協力できるという一石二鳥の効果がある。

パンや燻製、野菜づくり、マクロビオティック

くに書道教室…。イベントの内容は子ども向けというよりも、父親の視点で企画される。「自分たちがやりたい遊びを考えます。楽しくないと続かないから」。田植えや山遊び、キャンプや秘密基地づくりなど、アウトドアが多いのも父親ならでは。子どもにとっては遊びの経験が豊かになり、視野も広がる。参加するたびに楽しい思い出が親子の心に残り、「家族共通の話題が増えた」と他のメンバーも喜んでいる。

さらに、小児科の医師を講師に病気やケガの対処法を学んだり、キャンプに救急蘇生法の訓練を盛り込むなど、学習の場も。また、ある父親の子どもがいじめにあったのをきっかけに、長野県教育委員会から講師を招き、「いじめ予防」がテーマのフォーラムも開催。父親が直面した子育ての不安を、メンバー共通の悩みとして受けとめ、一緒に解決する道を探る。

「イベントに参加することでおのずと子育てを学び、父親としての意識も向上します。現代の核家族や共働き世帯は母親も孤立しやすいので、子育てをサポートする父親の役割は大きいと思う」と松田さん。遊びと学びを通じた父親同士の交流は、仕事以外の人間関係や人生の楽しみも育む。子どもだけでなく父親の視野も広がり、心の余裕や家族への思いやりが生まれる。そんな「こうちパパ楽会」の活動は、良好な家族関係の形成に一役買っている。

(文責・CEL編集室)

CEL